

大会競技規則

- ◇ ゴール 高さ 2m、幅 3m、ポストの幅 8cm
- ◇ ボール フットサル用ボールを使用します。※試合球はTJKで用意いたします。
- ◇ 必要な用具
※貸出はございません
- 1) ユニフォーム は、試合当日は個人ごとに固定番号でお願いいたします。
ジャージまたはシャツでも参加は可能ですが、ユニフォームが揃わないチームはビブス着用となり、番号は個人ごとに固定とします。
 - 2) ソックス
 - 3) すね当て（けがの予防のため）
※着用を義務とし、無い場合は試合に出場できません。
 - 4) フットサルシューズまたは靴底がゴム、または類似の材質のトレーニングシューズ（ポイントスパイクは禁止です）
 - 5) キーパーグローブ
 - 6) メガネ・時計・装飾類の着用した方は参加できません。
- ◇ 試合時間 前後半6分
- ◇ 競技者数 TJK被保険者で、同一事業所の被保険者で構成しているチーム（5名以上15名以下）とします。登録後のメンバー変更は「第8回関西地区TJK事業所対抗フットサル大会参加登録メンバー表(変更用)」にご記入の上、随時リゾート予約センターにご提出ください。（FAXまたは郵送）。変更の締め切りは試合日前の火曜日17時までとなります。当日は「第8回関西地区TJKフットサル大会メンバーエントリー用紙(当日用)」を審判用としてご提出いただき、健康保険証で当日資格確認ができる方のみ出場を認めます。
※エントリー用紙(当日用)提出後、電車等の遅延で競技者が揃わない場合は4名にかぎり参加を認めます。
- ◇ 反則 原則的にFIFA規定「FUTSAL競技規則」に準じて判断しますが、激しいショルダーチャージとスライディングタックルは禁止します。
ゴールキーパーや女性選手に対するファウルは厳しく反則をとることとします。
反則があった場合、その場所からFKが与えられます。
その際、相手側はボールから5m以上離れることとします。
ファイブファウルルールを適用します。反則をカウントし6つ目のファウル以降は第2ペナルティマークからPK（ゴールより10m、壁なし）あるいは、反則を受けた所からの直接FKとなります。ただし、危険なスライディング（後ろからのスライディング等）はその時点でイエローカードが与えられます。イエローカードは2枚で退場となります。退場となった選手は、その試合及び次の試合に出る事ができず、2分間のペナルティタイムが科せられます。ただし、ペナルティタイム経過後に交代選手が入ることはできます。また、ペナルティタイムの間に相手側が得点をいれた場合は、ペナルティタイムは終了とします。
この取り扱いは、レッドカードが出た場合も同様とします
なお、審判への抗議、暴言はペナルティの対象となります。
※累積警告はイエローカード2枚で次試合を出場停止とします。

- キックイン スローインではなく、キックインで競技が開始。(間接フリーキック) ボールは タッチライン上または、タッチラインから外側へ 25cm 以内で静止させる。 走り込んで蹴っても良いが立ち足、蹴り足は ライン上またはラインの外側に置く こと。
- ◇キックオフシュート キックオフから直接得点することができません。
※セットしたボールをシュートできないだけです。
- ◇ ゴールクリアランス 11人制のサッカーのゴールキックの代わりです。
ゴールクリアランスはキーパー・スローのみです。(蹴ることはできません。)
- ◇ ゴールキーパーのプレー インプレー中にGKがキャッチしたボールは、投げるか蹴ることができます。また、ペナルティーエリアの外でもプレーできますが、4秒以上ボールをキープする事はできません。(ゴールキーパーの4秒ルール)
ゴールキーパーは、直接得点する事ができます。
ただし、ボールを投げて得点した場合はこの限りではありません。
- ◇ バックパス ゴールキーパーへのバックパスは禁止です。ゴールキーパーから出されたボールは相手プレーヤーが触れなければゴールキーパーへ戻せません。戻した場合、相手側に間接フリーキックが与えられます。
また、ゴールキーパーは相手ハーフ(敵陣地)にいない限りパス交換はできません。
ただし、ゴールキーパーの4秒ルールは適用されます。
- ◇ リスタートの4秒ルール ゴールクリアランス、フリーキック、キックインなどのリスタートは、4秒以内に行わなければなりません。4秒を超えると相手側のボールになります。
- ◇ 選手の交代 インプレー中、アウトプレー中にかかわらず、交代ゾーンを用いてフィールドプレーヤーもゴールキーパーも自由に交代できます。
ただし、交代でピッチ外に出る選手が完全にタッチラインを越えるまでは、交代で入る選手がピッチ内に入ることはできません。
- ◇ オフサイド オフサイドはありません。
- ※大会運営上、アウトオブバウンズ等において時計は止めません。ただし、主審が特に必要と判断した場合のみ時計を止めることとします。